

65

絵本の内容分析による幼児教育向け絵本推薦システムの作成

同志社大学図書館情報学研究室
十河香菜子 野島真由子 藤尾万椰 山田春菜 佐藤翔 原田隆史

絵本の内容分析



- 内容を表すのにふさわしいタグを抽出
- マニュアル的な付与を実現

幼児教育者へのFGI (フォーカスグループインタビュー)



- 幼児教育の各場面でどんな絵本が使われるか
例：0歳児のお昼寝前・運動会の前の雨の日
- 大量の場面と絵本の対を作成

抽出したタグ

場面・絵本の対

照合

幼児教育の場面に合わせた
推薦システムを作成

前田桂子らの論文に基づく分析

- ・ページ数
- ・絵の技法：立体的/平面的/モノクロ/切り絵
- ・色の明暗：強/中/弱
- ・文体：単語の羅列/体言止めの羅列/整った文章
- ・登場人物：人間/動物/植物/その他
- ・話の展開：全体繰り返し型/繰り返し展開型/起承転結型
- ・話の現実性：日常で現実的/非日常で現実的/ファンタジー/イメージ的
- ・主なテーマ：
 - 知育的
 - 物語性が強く文学的
 - 勸善懲惡/ハッピーエンド/冒険物、ファンタジー/道徳的/日常を描写/想像力を育てる/その他

分析項目の改善

- (技法:「写真」の項目を追加
- コントラスト:「色彩」と「輪郭線」の項目を分ける
- 文体:体言止め→「リズム感重視の文」に変更
- 登場人物→「主人公」に変更
- 各項目の分類基準を明確化
- 「主なテーマ」と別に「エンディング」の項目を追加
→ハッピーエンド・バッドエンド・その他に分類

【基準明確化の例】

- 「話の現実性」
- ・ファンタジー = 非現実、実際にありえない
 - ・日常で現実的 = 日常生活を描いたもの(ク)
 - ・非日常で現実的 = 登場人物にとって特別なこと(ハレ)
 - ・イメージ的：抽象的、物語性がない
- 「主なテーマ」
- ・道徳的：主人公の精神的変化が重視されているもの
 - ・想像力を育てる：物語性は弱く詩的なもの、抽象的など

- ◆分析中に浮上した問題点・ズレ
- * 「色の明暗」「話の現実性」「主なテーマ」などの項目における客観的基準の不足
 - * 「体言止め」に当てはまるものが少ない
 - * 「登場人物」の明確な定義がない
 - * 「主なテーマ」で交差分類が起こる など

改善後の分類項目

項目	選択されるタグ
ページ数	
技法	立体的・平面的・モノクロ・切り絵・写真
絵	
色の明暗	強・中・弱
輪郭線	強・弱・なし
文体	単語の羅列・リズム感重視・整った文章
主人公	人間・動物・植物・その他
話の展開	全体繰り返し型・繰り返し展開型・起承転結型
話の現実性	日常で現実的・非日常で現実的・ファンタジー・イメージ的
主なテーマ	知育的・勸善懲惡・冒険物、ファンタジー・道徳的・日常を描写・想像力を育てる・その他
エンディング	ハッピーエンド・バッドエンド・その他

今後の展望

作成したマニュアルを元に、最終的には大量の絵本に対してタグ付けを行う。その後、幼児教育者に対するFGIを行った上で得た結果を用いて、タグによる絵本の推薦システムを作成する。